

## 令和5年度 第2回 西宮市立こども未来センター運営審議会 議事録

日 時：令和5年11月17日（金）13時55分～16時05分

場 所：こども未来センター4階 会議室

出席者 【委員】 新澤伸子、松井学洋、金高玲子、田村三佳子、畑本秀希、若松周平、  
原田愼一、出路賢之介

【事務局】 こども支援局長 伊藤  
こども未来部長 大神  
こども未来部参事兼特別支援教育課長 會澤  
こども未来部発達支援課長 中川、同係長 吉田、藤長、馬渡  
こども未来部診療事業課長 谷口、同係長 坂本  
こども未来部地域学校支援課長 安積、  
同心理士 日野、同主任保健師 高山

- 次第
1. 令和4年度こども未来センター実績について
  2. 令和5年度主要な事業について
  3. 西宮市立こども未来センターのあり方について（提言）公開について

---

### 開 会

#### ○開会

配布資料の確認、進行方法の確認

#### ○議事

傍聴希望者1名

#### 【会長】

議題1について、通園療育、診療所、相談、地域学校支援の順で説明をお願いします。

#### 【事務局】

議題1について説明

#### 【委員】

わかば園で、親子療育教室の紹介が減っていることをどのようにお考えか。

### 【事務局】

現在の紹介元は2階の診療所となっている。

そちらで主治医が付き、小さな集団での経験、親子での経験をと言われた方が、わかば園での小集団に所属されるというような流れになっている。

ただしその人数が現在減っているので、今後、そのあたりを検討しないといけないと考えている。

### 【委員】

診療で利用者が減っているというのは、利用したいけれどもできなかったというのが、現状の実態だと思う。それは職員や対応するスタッフがいないという、こども未来センターだけではなく、学校園でも教師がいないとか教頭先生が走り回っているということも耳にする。

特別支援学校や地域の小中学校で医療を必要とする子どもたちがいて、看護師を見つけられないとか、そういうことがあちらこちらで起こっている。つまりニーズはあるがそこに対応できない、なにか行政側の不備があるのか。

ある県では他府県で探してくるという動きも聞いている。

その辺りでなにか工夫されていることはあるのかということが1点。

現在不登校の児童数がピークで、こども未来センターだけで対応しているわけではないと思うが、これだけ多くの子供たちが不登校に陥っているという現実を前に、市としてどのように受け入れとか、支援対策を組んでいこうとしているのか、わかる範囲でお答えいただきたい。

### 【事務局】

診察もリハビリも受けた人が減ったわけではなく、こちらの職員が足りないという事情で件数が結果的に減ってしまったのは事実である。

医師及び各理学作業言語の専門職で、子供を対象に経験を積んでいる専門職が非常に少なくなっているという現状である。

大学の医局でも、小児科医を目指す学生が非常に少なく、小児科医自体の人数が減っており、その中でも発達を専門にするのは将来開業を考える場合に、保険点数などの関係でなかなか発達の診療だけでは難しいというところもあり、医師の育成も苦労されているということである。

各セラピストは、どの部門でも、高齢者を対象としたリハビリの専門職となる方が専門学校、大学でも多いようで、子供の経験のある方という求人募集を出しても集まらない。次第に条件を緩和して、子供の経験がなくても、その職種としての経験があり、子供に対し、セラピストとしての意欲があれば、ということで、何とか退職の職員が出た際に次の職員の確保に努めている。

求人も、兵庫県内だけではなく他府県の各療法士会へも出している。

職員の確保が以前よりも厳しい現状である。

こちらでも退職者が出ないように気を配りながら人材確保に努めていくつもりである。

### 【事務局】

2点目のご質問について。不登校数は市内で1000人を超えている状況である。「あすなろ みらい」

と共に教育委員会所管のあすなろ「なるおきた」「かわらぎ」「やまぐち」でも、カリキュラム制やフリーセレクション制など、いろいろな活動体系のプログラムを行っている。

サテライトとして、公民館等でショートタイム制の形で「しおせ」「うえがはら」「はまわき」を開設し、短時間から始めてみようと思う児童生徒に対応している。

「あすなろオンライン」では、体を動かさず体験的な活動等を ICT を活用して行っている。「あすなろトーク」など、オンラインを活用した対話、つながることができる支援を増やしている。

#### 【委員】

どこにも出かけていない子どもたちにも行政の方から何らかの形で繋がることをしていただいているということか。

#### 【事務局】

オンラインでも全員のカバーはできていないが、学校保健安全課と一緒にいろいろな形でアプローチできるような取り組みを進めている。

#### 【委員】

西宮市内だと、NPOとかいろんな団体で子供食堂などサポートされているが、行政と連携してなにかをすとかということはあるのか。

#### 【事務局】

学校保健安全課と連携してフリースクールの先生方との交流や会議もしている。

#### 【委員】

具体的にどういう連携をされているのか。

西宮はみやっ子サポートという、阪神間でも名前が知られるような団体があると聞いている。

さきほど不登校数 1,000 人超えと聞いて人数の多さに驚いたが、今後コロナの影響が 5 年～10 年かけて出るという話も聞いているので、子供は減るがそこが増える傾向なのかと思う。お話を聞いていても、どこも人が足りないという状況で、民間活用を今後も進めていかれるのか。実際に会議を持たれているのは理解できたが、今後どういう見通しを取られるのかを詳しくお聞きしたい。

#### 【事務局】

学校や教室が苦手な子がいるので、呼び方を「あすなろ学級みらい」から「あすなろ みらい」に変更した。学校保健安全課も地域・学校支援課も、社会自立を目指して支援している。職員は、以前は「教員経験者」だったが、現在は「公認心理師」も加わっている。まず居場所として安心できるところや、寄り添えたり一緒に集まってゲームや話ができたりするような部屋を作っている。フリースクールの取り組みなども参考にさせてもらいたいと考えている。

#### 【委員】

全般的に前年度の対比でわかりやすく増減を書きいただいている指標は大事だと思う。

しかし、多分5年度の実績もまだコロナの影響が続いていた4年度と比べてどうということになる。

お子さんとか実際の運営制のキャパシティがどうであって、計画として年度当初にこういう体制であるからこれぐらいの枠数を受入れるとか、受入れるはずだったが実際はどうだったのかというような対比の指標は、ここに示されていないのか。

そもそも計画という指標自体がないのか、数の見込み量で、数年度前の時点で各事業によって違うのか、全体としてなのか教えていただけたらありがたい。

#### 【事務局】

一般的な計画の数値は、全部が全部あるということではないので、問題となる数字がお出しできるということはないが、一部計画で定めるものはあるが、特に今お答えするものはない。

発達支援課以外で何かあるかもしれない。

#### 【事務局】

アウトリーチは、ご意見・ご提言をいただいた。“何回も支援に行く”ことが大事な時期もあったと思う。うまく関われるようにスキルアップしてもらうための教職員向け・支援者向けのサポートをしている。まず、“知ってもらう”数的な目標で行く時期も必要であったし、質的な視点や支援の仕組み作りも大事な時期にきていると思う。

#### 【委員】

ノルマ的な目標が必要という意味合いの発言ではなく、こういう質でこれぐらいの手厚い体制で、去年は10人だったが今年は5人の方にしっかりしようという計画があれば、妥当性がどうなのかという議論が可能になると思う。

前年度対比となると、どうしても去年との違いでしか検討ができない。その計画はどのような数字で計算されたのか、この資料にもう少しこれを検討して数字を、という議論ができると思ったので、今後は計画という数字があった方が良いのではないかと意見を申し上げる。

#### 【委員】

単純な疑問だが、何に使うために数値だけ並べているのか。こういう統計を取るのであれば、何か考察があってもいいのではないかと思った。

#### 【事務局】

5年度の主要な事業、課題と分析については、次の2項目でご意見いただけたらと思う。

#### 【会長】

例年この審議会の時に、冊子になった事業報告、事業概要というものが配布されており、細かいところも確認しながら（審議していたが）、全庁的にも紙媒体ではなくデータ（になった）ということだった。

事前に目を通していただいているとはいえ、例えばパワーポイントで投影していただけていないため、

大まかな件数だけではなく、かなり細かく統計も出していただいていたので、もう少し突っ込んだ議論がしにくい状況だったかなと思う。

その上で、例年事業概要の最後のほうのページに、西宮市事務評価シートに沿って、経年的に令和元年から毎年それぞれの事業について目標と実績ということで出されている。このフォームはP D C Aサイクルをまわしていくという目的で、プラン、ドゥ、チェック、アクションという形になっている。これを見ると、例えば児童発達支援事業については、例年わかば園と北山学園について報告が書かれているが、今比較したら残念ながらチェックのところとアクションのところが、令和4年度と令和5年度と全く同じ文言になっている。これでは、チェックをして次年度に向けてアクションと言われてもどう読み取ったらいいのか。

今のご質問は、例年出る質問で、数値が上がったとか下がったとかではなく、質的なところについては多分別の資料に考察等書いていただいていると思うが、やはりなぜそうなったかということについても、例えばリハビリにしても急に退職と欠員があって、そのために人を探してもなかなかいないという事情もわかるが、そういう現状の中で多くのニーズに答えていくためにはどうしたらいいのかという議論をしていくために、こども未来センターにどれだけ人員配置するかという議論ではなく、例えば不登校については民間のN P O等もそういう活動はされているし、それから診察に関しては、A チーム B チームとで動かしていただいているが、それについても構想自体はコロナ前からあって、コロナになってしまってなかなかそれが動かなかつたけれども令和4年から紹介制ということで動いてはいると聞いているが、A チーム B チームで動かしていることで待機が減っているかといえばそうではない。

それについてもどうしていくかということ等も多分このこども未来センターの審議会の中だけでは議論が尽くせない。おそらく発達支援課で回答していただける範囲は超えているとは思っているので、だからこそ提言書で書かせていただいている。またこの後のところで、提言書を出した後の庁内でどのような動きがあったとか、この審議会で扱えないけれどももっと突っ込んで議論して、具体的なアクションに結びつけていくための議論をする場等についても後ほどご説明いただければと思う。

もう一度最初の質問に戻るが、発達支援事業について、令和4年度と令和5年度と、事業概要で書かれている内容が同じということについてご説明いただきたい。

### 【事務局】

ご指摘いただいた部分について、現実として同じようなものが並んでいる。具体的にやっていることが、療育というところで劇的に変わらないというところが1つ。こちらの内容についても特に変えなかったのかというような感じがするが、児童福祉法の改正や、提言もあったので、来年以降については内容も当然変わってくると考えている。

ご指摘いただいた点も変更していき、今後現実に即したチェックアクションという内容にしていく。

### 【副会長】

資料の令和4年度の実績で2点質問したい。

1点目は、関係機関等からの紹介が書かれているが、これはどういうフローでこども未来センターに紹介があったのか。例えば保護者から学校園の先生に要望があって、そこからどういう形で、どなたが申し込まれるのか、手続きのフローを教えていただきたい。

2点目は、連携支援の令和4年度専門家チーム派遣というところで、小学校は100件を超えている中で、幼稚園と高校が非常に少ない。高校は昨年度と同じく0件となっているが、なぜ差が出ているのかを教えてください

#### 【事務局】

1点目について。保護者からこちらの相談員にご相談があった場合、こども未来センターで診察を希望される場合は、紹介制であるという説明をさせていただく。所属の学校園所どちらかへ通っていらっしゃる場合は、そちらにご相談いただき、そちらの長の方の署名をいただいたものをお持ちいただいたの診察申し込みとなる旨のご説明をさせていただいている。それは保護者からの希望という場合である。

また、学校園の先生からちょっと気になるからというような時に、紹介制になってからは先生の方からも声掛けが少し以前よりはしやすくなったというところもあり、紹介するので一度こども未来センターへ相談してみられては、といった、先生方からの声かけでという流れもある。

医療機関は、こども未来センターへかかりたいということで紹介状をもらうために行くという方の中にはいらっしゃる。また、もともと通っておられる主治医の先生にご相談いただいて、そちらからこども未来センターで診てもらったということで紹介状をもらっていただくというケースもある。

保健福祉センターでは、乳幼児健診担当の先生が診られて、一度専門のところで診てもらったほうがいいということになると紹介状が出るという流れになっている。

#### 【事務局】

2点目について。以前は、市教委特別支援教育課が行っていた事業である。金高委員には、相談員として学校園の支援をお願いしている。公立幼、小学校、義務教育学校、中学校が対象。保育所事業課と連携し、本課の心理士が保育所や私立幼稚園を支援している。アウトリーチで市立高等学校2校の支援も行っている。幅広くアウトリーチで支援していることをご理解いただけたらと思う。私立や県立など、本人やご家庭からの電話相談、来所相談を受けている。不登校等の相談も対応しているが、専門家チームやあすなろは公立が対象となる。

#### 【副会長】

専門家チームの派遣がゼロなので、特にニーズがあがってこない、隠れているというわけではなくて、アウトリーチの方で十分フォローできているので、専門家チームの派遣までは把握できないということか。

#### 【事務局】

教育委員会の業務を引き継いでいるので、対象が公立学校園になっている。市立の高校2校は、アウトリーチで支援している。

#### 【委員】

不登校のことは、身近に知り合いがいるので細かいところを聞いてしまったが、事業全体のそれぞれ前年と比べての数字というところもそうだが、それぞれの事業がどう評価されているのかというところの

考察が、資料の中にないかと思っている。それは何を言っているかというところ、一つ一つの事業かどうかというところは、資料である程度書かれているところもあるとは思った。

それが例えば、資料の中には、事業がなかなかわからないが、10 何個今順番に説明していただいたが、その中でこども未来センターとして十分役割が果たしている事業、果たせていない事業、今後 5 年にわたって、さらによりサポートがしっかりできて、支援者の支援ができる、もしくは、先ほどの統計的などところと、5 年 10 年後のこどもの人数や、こども未来センターがやるべき事業かどうかなど、そこら辺の各事業を全体で見た上での評価。

ひとつひとつの事業ごとに見て最適を目指していくのか、こども未来センター全体として市民に役立つ場所を目指していくのかがわからない。この場合は事業ごとの最適について細かい話をしていく場として正しいのか。こども未来センターという大きなものをいい場所にしていくという上では、リソースが足りないのであれば、事業によっては閉じて民間に任せる、といった民間企業みたいな考え方が本当は適していない可能性はあるかもしれないが検討の必要性を感じる。

こども未来センターとして、今日配られた事業計画の中に基本理念がしっかり載っていた。この理念に向かってこども未来センターが実現していくために、今ある事業を確実にこれからも 10 年やっていくのか。それが必要なのか。このこども未来センターとしての理念を達成するために、各事業それぞれをどう評価していくのか、というところの考え方がないと、今十分ではない事業をもっと頑張っていきたいという話が多いが、本当にその事業を頑張る必要があるのかという評価をする場がこの審議委員会ではなくてどこかにあるのか。

先ほどのアクションが去年と一緒というのはやはりどこか惰性があるのかという気がしている。

西宮市として、今後この事業はやっていくとか、やっていかないとかを考えているのは誰なのか。

どの組織なのか。誰にお伺いしたらいいのか。

### 【事務局】

こども未来センターを設立した時に、理念を作って、どういうふうな事業をやって、どういうふうに達成していくか。そのためにはどういう人員が必要でというようなことを、最初に議論している。

まず、そちらに立ち戻って、そこからまた考え直す、やっていく必要があるというのは、今ご指摘いただいた通りであろうかと思う。

こども未来センター自体が児童発達支援センターという施設であって、これからの役割としては、どちらかというところ、二次的とか三次的な役割、或いは市内にたくさんある様々な事業所であったり、学校園とかの支援を中心にしていくべきだろうというところがあるので、そういった基本的なところに立ち戻りながら、こども未来センターがやるべき事業としてはどういうものがふさわしく、やるべき事業なのかというのを確認した上で、今後進めていく必要があると考える。

市との関係で言うと、障害福祉やこども支援局全体の事業とも関わっている。

指標で言うと、子ども子育て会議の中の子ども子育て支援プランというものの中に、一部アウトリーチの施設数の目標があり、そういったところとも連携しながら考えていく必要があると考えている。

### 【会長】

西宮の中で本当に必要な人たちに必要な支援を必要なタイミングで提供していくためには、こども未

来センターだけでなく、民間も含めてオール西宮でどういう円を描くかということが重要。

それでアンケート調査をかなり大がかりにして提言を書いて、その提言の中でもこども未来センターしかできないものは何なのか、地域を育てていくということを積極的にやっていったほうがいいということも、提言に書かせていただいているが、それをもっと煮詰めて、具体的な話にしていくような場がどこなのかというのは、提言をまとめた委員は全員思っていることだと思う。

それについては、議題3で提言をした後、庁内でそういう会議体はどこなのかということについても、検討して議論していきたい。

では議題2について事務局から説明を願いたい。

## 【事務局】

議題2について説明

## 【会長】

提言をまとめるにあたっていろいろ運営審議会やワーキングで協議させていただいたことを、意識して回答いただいたという印象を持っている。

例えばこども未来センターによる資源の有効活用という意味では、西宮支援学校の理学療法士派遣も、わかば園に来ている生徒さんのことでいくのではなく、支援学校への支援という、機関支援という形で行っており、SSTが通級指導の先生たちをその校区の通級指導教室でできるようにサポートをして、しかも通級の先生たちのグループワークというネットワーク作りなどもしているということもその地域の支援と連携していくいい事例だったと思う。

一方で課題の部分もあるので、その点について。

## 【副会長】

2つあり、1つ目、3ページ目の初診の待機期間が約9ヶ月というのは、なかなか厳しいという実感がある。

待機中のご家族と子供に何かフォローが入っていればまだいいかとは思いますが。例えば2番目の学習会で、保護者支援で勉強会をしてウェブディスカッションをおそらく当事者グループを作るというのが目的に入っていると思うが、私は同じような勉強会を年4回やっていて、11月にも開催したが、毎回定員12組の中で保護者16名ぐらい、この間は子供が19人来てくださり、ほぼ全員小学生である。なので、ニーズは間違いなくあると思う。

要は、広報の仕方も大事だと思うが、こども未来センターがどこまでこれを受け入れるかというところがポイントだと思っていて、全部このこども未来センターでやるほうがよいのか、それとも委託とか、そういった当事者グループというのは西宮市内にたくさんあるので、とにかく待機中の子供たち、保護者を、信頼できる場所であればなお良いと思うが、繋いでいくということをしていかないと、いつまでたっても支援のニーズにこたえられないのではと思う。

医療の診断を受けた子供は次の日から変わらないので、まず環境調整を最初に進めていかないといけない。その環境調整の一步として、当事者グループで話し合うとか、少し専門的な知識を勉強してもらうとか、そこはドクターでなくてもできることなので、そういった地域の鍵を作っていくということが求

められるのではないかと思う。できることは限界があると思うので。

ちなみに支援教室にこども未来センターでチラシを見てきた人は1人もいなかった。もし信頼していただけるのであれば、また紹介いただければと思う。

2つ目が、5番目の不登校の件、5ページ目、教育支援センターの件。

私も不登校の子への支援をやっていて、不登校支援はどうしても子供にフォーカスする傾向があり、もちろん児童生徒のサポートも大事だが、不登校の場合、保護者へのサポートがより重要だと考えていて、焦る、不安、見通しが立たないという保護者に対して、少しお話を聞くとか、これまでの保護者同士で、不登校児をお持ちの方で話し合う時間が結局有効なケースがあるので、例えばこの教育支援センターの中で、保護者へのサポートがもし行われていくのであれば、もしくは、考えているのであればお聞かせいただきたい。

### 【事務局】

保護者サポートとして、保護者会をしたり送迎の時間等をうまく使って、一緒に話せる場を設定している。同じ悩みを話せるようにつなげる工夫をしている。

### 【委員】

私がいろいろ考えたことについては実質的なところでほとんどお答えいただいたが、研修のことで、教職員向けはかなり厳格に動いていると思うが、当事者や保護者向けの研修が本当に少ないと思う。

例えば神戸だと、竹田先生は毎月就学前の子供たち、お母さん向けとお父さん向けをやっている。小学校に入る時期には、保護者が我が子のことをきっちりと学校に説明することができる。我が子はこういう特性があるので、こういう支援をしてくださいということが言えるという、非常に安定した形で就学していると聞いている。できるだけこの研修、保護者向け、或いは、本人が出向いてくる可能性もあると思う。竹田契一先生が研修する時は、保護者だけではなくて本人が来る。そういう良さもあるし、自分を語ることができるという、当事者を育てる場にもなっていると思うので、ぜひ今後力を入れていただきたい。

歴史を遡ると、西宮市の最重度の子供たちから発達障害の子どもたちに至るまで、長い間関わってくださっている専門家がたくさんいる。ぜひこれからもその辺りの力を育てていただければありがたい。

### 【委員】

数字を見て思ったのは、相談件数が10%増えて、リハビリが10%減っているというところ。というのは、今年度、父母の会で相談を受けたのが2名で、どちらも割と追い詰められていたというところで、もう少し僕らも早く何かサポートができればと思ったが、この数字だけ見ていたらまたこういう人が増えるのかなという感じがする。

本当に当事者の親としては何とかならないのかと、1日1日が結構しんどい。

ただ、再度、人材の問題になるが、トレンドとしてはわかりきっていることなので、例えばその民間連携というのが、今採用は募集していなくても、エントリー的に緩く募集するとかというのはできないのかと思う。

内輪の話だが、娘が今OTをしていて片道2時間かけて奈良県に通っている。結構離職もある職種なの

で、何か魅力的なポイントがあって何かエントリーする、常に何かストックがある状態というのは作っておいた方がいいのではないか。

不登校に関しては不勉強だが、調べてみると箕面市は全国的にも非常に不登校の率が千人単位で低いというのはなぜか。他市の成功事例を聞きたい。成功事例を全国から集めてくるというのは非常に大事なことなのではないか。

いずれにしても予算をつけないとどうしようもないことだが、成果があればぜひやって欲しい。

#### 【委員】

こども未来センターとしてやるべきことで、診療行為は民間でも報酬がいただけるわけだから民間に渡せないのか。

それ以外の相談支援や、あすなろみらいみたいなことにもっと特化していったらどうか。一番のきっかけは初診の待機時間で、どこまでいっても多分このままだと思う。ここを改善するというよりは、もう手放した方が手っ取り早いと思った。

#### 【会長】

その辺りも提言では、一次、二次、三次という形で、その中間、二次のところを育成しようということに進んでいて、こども未来センターは多分その地域の医療機関で診断が難しい困難事例という位置付けということも考えているので、0か100ではなくて、階層的な構造にしていく必要があると思う。

かなり課題の洗い出しはできてきたので、議論を先に進めていかないといけない。ただいつもその議論の最後で、こども未来センターの運営審議会の範囲を超える、また庁内で見ても課の範囲を超えるというレベルのことがいろいろ出てくる。

令和5年度の事業についてもご質問等あるかもしれないが、次の3番目の議題に移らせていただきたい。

#### 【事務局】

議題3について説明

#### 【委員】

私は障害福祉の福祉審議会（事務局注：高齢介護課所管の計画の審議会のことでは？）に参加しており、内容的にはかなり高齢者に特化したいろんな政策を検討しているので、今の説明とあまりマッチしないような気がする。

#### 【事務局】

これまでの障害福祉推進計画は、障害児の方がなかなか少ないので、提言を受けて、盛り込んでもらうよう障害福祉課と協議をしている。

範囲が広いので、どこに盛り込んでいくか、結構散らばることもあるが、その辺りを含めるようにということで我々も進めている。

【会長】

今のご説明だと、提言案は障害福祉推進計画に盛り込まれるということだが、どのような形で盛り込まれるかは、パブリックコメントで意見を言うしかないという理解でよろしいか。

【事務局】

その通りです。

【会長】

策定委員会の委員にはこの会議のメンバーはいらっしゃらないのか。

【事務局】

いらっしゃらない。

【会長】

例えば、医療の診療のことについても、待機が減らないし、もうこども未来センターで診療しなくてもいいのではないかという意見もあったが、今せっきく A チーム B チームで動いていることについても、なぜそれがまだ効果が出ないのかということは、その効果が出るまで、その時期が尚早なのか、それともその他の要因があるのかということも、分析等をきちんとしていく必要があると思う。

私も他府県と同じような例を経験しているので、その診断機関だけ出来ても、相談ケースは増えているが、そのあとのリハビリ等がついてこないと実際困る方が増えるわけなので、診断ができて、結局またこども未来センターに再診に戻ってくるということは、その地域で専門的な助言等ができる、必ずしもドクターでなくてもいいと思うが、療育の専門機関というような二次の機能を持っている療育機関というのは育てていく必要があると思う。

児童福祉法が改正されて、児童発達支援センターは、西宮市ではこども未来センターと北山学園と北部にあるものも児童発達支援センターであることには変わりがないので、今まで以上に地域支援、家族支援に力を入れていく必要がある。

そのあたりをどのように役割分担していくかということも、提言では明確にして、役割を持って、連携していくということだが、具体的に庁内でどういう会議体で、どのように継続審議されていくのか。

【事務局】

障害福祉推進計画について、提言はある程度具体的にいただいているが、その大もとになる計画に掲載するにあたって、あまりそういった具体的な表現等々での掲載は難しいようです。

実際に初見で見たときに、具体的なものが浮かぶまでの表現になっているかというのは、何とも言いえない。大きな計画ではぶら下がるものが具体的になっていくものだと思うが、協議体というところになると、子育て新プランの中の会議体や、大きな部分での話となってくると思う。こども未来センターが関係するのがどちらの会議体で、新たなものができるかもしれないし、現状では今申し上げたようなことになる。

### 【事務局】

今の回答について補足すると、まず市立の児童発達支援センターがこども未来センターと北山学園ということになっている。

こども未来センターは、来年度から通常の児童発達支援センターになったとしても対応は可能かと思うが、北山学園は知的発達のお子さんを受け入れている関係で、身体障害の方は基本的に受け入れていない。なので、今後その施設のハード面をどうしていくか。

来年度から児童発達支援センターは全障害を対象にするということになっているので、その辺りも含めてまずは市立の児童発達支援センターであるこども未来センターと北山学園がどういう役割を担っていったらいいのかということ局内で協議していかないといけないと考えている。

### 【委員】

戻すかもしれないが、健康福祉課のことをいろいろ聞いた時に、その中にここの委員がいないのも一つだし、子供の専門の方がどれぐらいいらっしゃるのかを質問したい。

というのは、実際現状で保護者の方はものすごく困っているし、意外とシステムがわかっていない。だから、診察申込書を書くのに、まず理解してもらわないといけない。

その現状をわかってない方々が不安で、市立ではないいろんな発達支援のところに行かれる。そこでいろんなことを言われる。そういう中で、どのような支援を私たちもすればいいのかとすごく悩む。だから、保護者の方がすごく不安に思っているということを一番に考えていただきたい。

そのために、オール西宮、西宮の子どもたちのためにというところをしっかりとお願いしたい。

庁内にいろんな方がいらっしゃると思うが、子供の専門の方がしっかりと考えて、作っていただきたい。

### 【事務局】

障害福祉推進計画の委員には、社会福祉協議会や手をつなぐ育成会からも入っていただいているし、その他にもPTA関係（実際は公募委員）の方だと思うが、前回の会議の中でも、みやっこファイルの有効活用についてかなり関心があってこちらの方にもご質問があったりもした。一定、子供のことにしても、専門家が揃っていると考えている。

### 【委員】

乳幼児の専門家は入っているのか。

### 【事務局】

乳幼児の方がいらっしゃったかどうかはわからない。

### 【委員】

今後に向けたイメージで教えていただきたい。

今回令和5年度の主な事業について教えていただいたが、例えばそれに意見したとしても、あと数ヶ月で終わるというタイミングになっている。

もちろんそこで反映いただけるところもあると思うが、この運営審議会がどういうタイミングで、何年度のどういう計画なり実績なりに意見すれば、具体的に実効性のある意見として活用いただけるのか。

もしかしたらもう令和6年度の話でも大卒の話では遅いのかとか素人ながらに思う。

この場の役割機能みたいな話になってしまうかもしれないが、各論をしっかり審議しましょうという場にするのであればそれでやるべきだと思うし、全体感とか、こども未来センター全体でどういう場であったり機能であったりという提言に近いようなところから落とし込みを議論していくのであれば、もう令和6年7年を議論しないといけないと思う。

意見のポイントもまとまりがなくなってしまうと感じる。おそらく事務局の方にご提案いただいたものに、任せてしまっているところがあるので。

例えばこの場の議題というの、この審議会で決めるということになっているのか、事務局の方が決めていただくというふうになっているのかということはどうなのか。議題はここで決めるべきなのか。

#### 【会長】

開催時期とそのタイミング等について。

#### 【事務局】

開催時期については、年度当初の方が昨年度までの実績及び、これからやっていくということで、具体的には5月6月あたりが、一番良い時期だと思う。

今年度は、提言という大きな議題があり、ワーキング等があったので、なかなか提言以前の動きと離れていたと思う。

予算の関係で言うと、9月10月ぐらいまでに必要なものの整理を終えておくべきで、やはり10月までぐらいが一番いいと思う。

大きなところからの落とし込みなのか、各事業での検討なのかということころは、事務局の方からこちらがいいということは今すぐ申し上げることが難しいが、議題的なものをこの審議会の中で出していただき、それについてさらに議論を深めていくというのは、審議会の皆様の中からのご意見ということでもいいことだと思う。逆にそういったところを、いろんな立場で、いろんな現場をお知りの委員の方から教えていただくことが、この審議会でも必要なことだと思うので、どちらかといえばそちらの方がいいのかもしれない。

#### 【委員】

年度当初に、昨年と比べてこうだというのはわかったが、本来なら年度内に次の事業計画が出てくると思うが、それはいつ見せてもらえるのか。

始まってから、計画はこうでしたというのはちょっと違う気がする。

#### 【事務局】

組み立てについて何度かご説明させていただいた内容だが、これまで、翌年の5月末ぐらいに年度が終わって、決算を含めてやってきているので、基本的なところの変更まで手が回らない。

**【委員】**

大きな夢というか、ビジョンだけでもこうだというのがあれば、私たちも希望を持って、こういうことを話し合ったといえる。

細かいものでなくていいので、ここに力を入れていくというものが欲しい。

**【会長】**

今後の審議会の予定はどのようにお考えか。

**【事務局】**

次回は来年の5月ごろと考えている。

時期が近くなったら改めて日程調整をさせていただこうと思っているので、よろしくお願いします。

**【会長】**

例えば5年度の事業の進捗状況について委員の皆様からいろいろなご意見があったので、ぜひ令和6年度の事業計画には、ぜひ盛り込んで計画を立てていただきたい。

障害福祉推進計画につきましても、前回の計画と、今の計画とが全く内容が同じだったことに心底がっかりしているので、次回はそのようなことがないようにしていただきたい。

それではこれで第2回西宮市のこども未来センター運営審議会を閉会とします。

---

閉会